学校番号	1004

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　新倫理　新訂版（清水書院）						
副教材等	テオーリア最新倫理資料集(第一学習社)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古今東西の思想・宗教について基本的なことを理解し、知識・教養を身につけよう。
・単に丸暗記するのではなく、歴史的背景や社会の仕組みと関連づけて主体的に学び、物事を深く考える力を伸ばそう。
・学んだ知識をもとに、現代社会における諸課題について分析・考察し、自分の考えを持てるようになろう。また、言葉や文章で自分の意見・考えを表明できるようにしよう。
・新聞を読み、ニュース番組を見ることで現代社会の課題や時事問題に関心を持とう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　古今東西の思想・宗教を、現代社会の課題と共に学ぶことで、青年期における自己理解・自己形成を促し、人としての生き方・在り方について理解と思索を深めさせる。
【思考力、判断力、表現力等】
　人間尊重の精神と生命への畏敬の念に基づいて、国際社会において、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促す。
【学びに向かう力、人間性等】
　良識ある公民としての能力と態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	「人間とは何か」、「私何者か」「人間社会は如何にあるべきか」という根源的なテーマについて関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的な意欲を持つと同時に、人間や社会にかかわる現代の諸課題を探求する態度を身につけ、人間としての在り方や生き方について自覚を深めようとする。	現代社会を生きる主体としての自己の確立について広い視野で諸課題を見出し、人間の存在や意義などについて多面的・多角的に考察・探求すると共に、人間尊重の精神に基づく、良識ある公民として、広い視野から主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を適切に言語化し表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方・生き方などにかかわる諸資料を検索・収集・読書し、有用で正確な情報を適切に選択して、自己形成に資するように活用すると共に、資料を用いて追究・考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現することができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	現代に生きる自己の課題（人間の特質と青年期）	1)人間とは何か ・人間性の特質 2)青年期の課題と自己形成 ・青年期の意義 ・自己の理解に向けて ・豊かな自己実現のために	a:人間存在の特性と青年期の意義と課題について関心を高め、自己理解を深めて豊かな自己実現を図ろうとする態度を身につける。 b:欲求と適応、パーソナリティの確立などについて、具体例を通して考えさせ、客観的に青年期の課題であるアイデンティティ確立の重要性を把握する。 c:フランクルの事例を通して、生きる意味について考える。	定期考査	定期考査	作文課題
	人間としての自覚と生き方(源流思想)	1)ギリシア哲学 ・神話から哲学へ ・自然哲学とソフィスト ・ソクラテス ・プラトン ・アリストテレス ・ヘレニズム期 2)世界三大宗教 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教 3)中国思想 ・諸子百家、孔子と儒家 ・儒教の展開 ・道家思想	a:現代思想の源流となるギリシア思想・中国思想・三大宗教について、1年次の世界史Aの基礎知識を元に、現代社会への影響についても考察しながら関心を高め、理性と信仰について体系的に理解するとともに、自らの生き方についての自覚を持つ。 b:各宗教や思想について、共通性や違いを意識しながら多面的多角的に考察し探求する。 c:思想にかかわる資料を読み、各思想の人間観・社会観を歴史背景とともに把握し、自らの意見を	定期考査	定期考査	作文課題

二学期	現代社会と倫理	・ルネサンスと宗教改革 ・モラリスト ・経験論と合理論 ・民主社会の原理 ・ドイツ観念論哲学 ・功利主義と実用主義 ・社会主義 ・実存主義 ・現代思想	a:ルネサンス・宗教改革からポスト構造主義まで現代の民主主義や市民社会にかかわる代表的な思想を歴史的背景と共に体系的に学習し、日本思想への影響に関心をもつと共に、国際社会生きる主体的自己を確立する態度を養い、他国の人々と理解・共生を求める人間尊重の精神と世界の平和共存への意欲を高める。 b:様々な思想をその歴史的背景と共に理解し、現代社会における課題の解決への糸口を思考し、自らの問題として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 c:資料を読み解き、論理的に思想の内容を分析・理解したうえで、思想を自分の言葉で発表することでより理解を深めていく。	定期考査	定期考査	作文課題
	国際社会に生きる日本人の自覚	・日本の風土と古代思想 ・仏教の伝来と隆盛 ・儒教の日本化 ・日本文化と国学 ・近世庶民の思想 ・西洋近代思想の受容 ・現代の日本の思想	a:1 学期に学習した源流思想がどのように日本思想に受容・変容されたのかに関心を持ち、日本思想の重層性について考察すると共に、現代に生きる日本人の宗教観や倫理観についての公正な理解を深め、国際社会を生きる日本人としての自らの生き方についての自覚を深める。 b:仏教・儒教だけでなく、西洋近代思想が特に明治維新以降、日本の政治や社会・文化に及ぼした影響や現代民主社会を構築した思想について歴史的背景と共に深く考察することで広い視野をもつ。 c:資料を読み解き、思想の変遷を表などにまとめ、発表することでより理解を深めていく。	定期考査	定期考査	作文課題

三学期	現代社会の課題と倫理	・生命倫理 ・環境倫理 ・現代の家族問題 ・高度情報化社会と倫理 ・グローバル化と多文化共生 ・人類の福祉と国際平和	a:現代社会の諸課題について、自らの問題として関心を持つと共に、自己の確立にかかわる諸課題を探求する態度を身に付け、自らの人としての在り方についての自覚を深める。 b:現代の諸問題の現状を分析し、有効な解決法や社会のあり方について考察し、広い視野に立って、自らの判断を公正に示すことができる。 c:新聞やインターネットを用いて諸問題について自ら調べまとめて様々な形で発表することができる。	定期考査	定期考査	作文課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度